

| テーマ名称 | | 担任者氏名 |
|-------|--|-------|
| 日本語名称 | 多言語社会の会話研究 | 古川敏明 |
| 英語名称 | Research on talk in multilingual society | |

| | ゼミナールⅠ（主に2年生向け） | ゼミナールⅡ・Ⅲ（主に3,4年生向け） |
|------|---|--|
| 授業概要 | <p>このゼミは多言語多文化社会を理解する手段として会話研究を行います。「社会的文脈における言語」の総称として「会話」という用語を用いていますが、関連する術語として言語使用・実践・運用、談話、言説などがあります。こうした術語の背景にあるのは「言語は社会的文脈と不可分である」という考えです。</p> <p>会話について考えていく上で、このゼミでは社会言語学における諸研究の成果を学びます。社会言語学が扱う領域は、文化人類学や社会学など隣接する学問分野と密接な関係にある学際的な領域です。</p> <p>授業では特に（書き言葉とは異なる特徴を持つ）<u>話し言葉の分析における複数のアプローチ</u>について学びます。そのため(1)文献についてのディスカッションを行うとともに、(2)<u>録画録音データの記述方法</u>を学び、(3)様々な言語使用場面を分析する<u>データセッションを通して分析のスキル</u>を磨きます。</p> <p>学期末には、既存のデータベースを利用するか、独自に収集した録音・録画データを用いたミニレポートを執筆することになります。独自のデータを収集する場合は、身の回りの興味深いコミュニケーション場면을対象とし、テレビやラジオといったメディアを対象とすることができます。</p> <p>ゼミでは多言語多文化社会、特に英語文化圏における言語使用（国際語・リンガフランカ・第二言語としての英語）に関する文献を多く扱うので、受講生は英語を介するコミュニケーションに関心があることが望ましいです。ですが、英語以外の言語の使用、複数の言語間の切り替えや混淆などの現象を追求したい受講生も歓迎します。</p> | <p>ゼミナールⅠと同様、多言語多文化社会に迫る手段として会話研究を行います。社会言語学をはじめとする文献を購読し、録音録画データの記述、データセッションを通して、多言語多文化社会の日常や制度的な場面における会話の分析スキルを磨きます。</p> <p>ゼミナールⅠとの大きな違いは、受講生が各自の研究テーマを持つことを求められる点です。ゼミ内外で文献を読むだけでなく、<u>独自の録画録音データを収集・分析することを通し、先行研究と自分の関心の接点を探ってもらいます。</u></p> <p>また、ゼミナールⅡ・Ⅲでは、<u>研究の応用可能性</u>を意識する必要があります。独自の録音録画データを収集し、特定のコミュニケーション場面について、何らかの問題の改善を提言することを目指します。</p> <p>社会調査法（観察、インタビュー、アンケートなど）を学んだ・学んでいる受講生であれば、言葉と社会の関係を追求する社会言語学の視点や方法を身につけることで、社会学の枠組みの中だけでは見えてこない、新たな研究の地平が見えてくるかもしれません。各自が収集したデータを検討するデータセッションを通じて、微視的な分析と巨視的な分析など会話研究の複数のアプローチを比較し、それらの接合点を探求しましょう。</p> |

| | | |
|---------------------|--|--|
| 授業の到達目標 | 話し言葉の分析を中心とする社会言語学の基礎概念を理解し、実際の会話で何が起きているか観察・説明できるようになることを目指します。 | 話し言葉の分析を中心とする社会言語学の概念を用いて、実際の会話を分析するとともに、研究の応用可能性についても探求することを目指します。 |
| 教科書・参考文献 | 教科書として以下を指定します。 カメロン, デボラ. (著). 林宅男. (監訳). (2012). 『話し言葉の談話分析』. ひつじ書房. (原書は Cameron, Deborah. (2001). Working with spoken discourse. Los Angeles: SAGE.) | 教科書として以下を指定します。 カメロン, デボラ. (著). 林宅男. (監訳). (2012). 『話し言葉の談話分析』. ひつじ書房. (原書は Cameron, Deborah. (2001). Working with spoken discourse. Los Angeles: SAGE.) |
| 成績評価方法 (評価基準・割合) | (1)購読文献に関するディスカッションへの積極的な参加を含む授業への貢献度 (50%) と(2)レポート (50%) で評価を行う予定です。 | (1)購読文献に関するディスカッションへの積極的な参加を含む授業への貢献度 (50%) と(2)レポート (50%) で評価を行う予定です。 |
| 備考・関連 URL 等 | 授業で利用するウェブサイトの一例 (以下は会話分析関連) Emanuel A. Schegloff's Home Page http://www.sscnet.ucla.edu/soc/faculty/schegloff/ TalkBank https://talkbank.org | 授業で利用するウェブサイトの一例 (以下は会話分析関連) Emanuel A. Schegloff's Home Page http://www.sscnet.ucla.edu/soc/faculty/schegloff/ TalkBank https://talkbank.org |